

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月18日

中国運輸局

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金及び離島航路構造改革補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島県離島航路確保維持協議会	㈱阿多田島汽船	阿多田～小方航路 (離島航路構造改 革補助金含む)	新型コロナウイルスの感染拡大などの影響はあったが昨今の釣りブームもあり利用客は微増した。定員を130人から150人に増員し、土・日曜祝祭日の釣り客の増加に対応と付船の費用削減を図った。	A	B	離島航路構造改革事業により阿多田～小方航路改善計画書を策定し航路改善協議会において、航路の在り方を検討し、公設民営化により老朽化した旅客船を更新することとした。今後は、船舶の更新と並行して、引き続き利用者の利便性・安全性を十分確保し増加傾向にある海上釣り堀の集客による運賃収入の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 前回ご意見のあった付船によるコスト増をなるべく抑えるため、定員変更で需要増に対応したことは評価できる。 今後新船の建造も控えていることから、航路としての需要を適切に把握し、さらなる利便性の向上及び利用客の増加に努めていただきたい。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	
広島県離島航路確保維持協議会	走島汽船(有)	走島～鞆航路	島民の減少さらには新型コロナウイルスの状況により利用の減少があるものの利用者に対し荒天時での早期欠航判断及び乗船客への連絡により、安全・安心の航路運営が行えた。また新型コロナウイルス感染症予防対策としては引き続き乗船時での検温、手指消毒、船内の消毒等を行う。陸上養殖施設整備の追加工事等で一定程度の利用があった。	A	B	島民が減少する中で、島民を含めより安全で利用しやすい航路運営に努める。さらに、利用者が安心して利用できるよう船内の清潔さと快適さに努める。 また、わかめの陸上施設の増設工事も施工され、今後出荷体制が整えば一定程度の利用が期待される。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・島内の人口が著しく減っている中で、島内の陸上施設の増設をチャンスと捉え、来島者増加につなげる要素としてうまく活用できるよう、要望やニーズを的確に把握し、利便性の向上及び利用客の増加に努めていただきたい。
広島県離島航路確保維持協議会	備後商船(株)	常石～尾道航路 (離島航路構造改革補助金含む)	利用実態に合わせ、利用者の利便性を確保したダイヤを検討している。船舶の更新については、航路改善協議会を開催し、航路改善計画の策定に取り組んだ。	A	B	航路改善協議会において、航路の在り方を検討し、小型化による効率化を図るため、老朽化した旅客船を更新することとした。 今後は、船舶の更新と並行して、引き続き、利用者の利便性を十分確保した上で、運航の効率化について検討していく。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・新船建造を契機に、高額にのぼる欠損削減のため、航路改善計画を活用し、非効率な運航ダイヤの改正など抜本的な航路再編に向け検討を再開することを期待する。
広島県離島航路確保維持協議会	尾道市	細島～西浜航路	船員確保と経費削減のため、令和3年10月1日から母港を西浜に変更し、平日の運航回数を9便から8便に減便する予定としている	A	B	新たな時刻表の利用実態を検証する。引き続き、航路改善を検討していくとともに、船員の確保に努める。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・島内の住民が少なく航路の利用も多くないことから減便を決定し経費削減に努めたこと、また船員確保のために母港を変更したことについて、今後航路を維持していくためには大きな決断であり評価できる。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	
岡山県離島航路確保維持協議会	三洋汽船(株)	笠岡～飛鳥～六島 航路	運航経費の削減に努め、安定 的な航路の維持を図った。	A	A	島しょ部住民の高齢化や人口 減少が進む中、今後も引き続 き、運航事業者と行政が連携を 図りつつ、島しょ部のイベント等 の活用や情報発信を行い、島 外利用者の誘致によって、航 路維持を図る。また、離島航路 改善計画に基づき、航路の再 編を行い、航路の効率化を図 る。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定してい る運航回数を達成しており、 事業は適切に実施されてい ると評価できる。 自社の佐柳本浦航路でも 寄港していた2つの港につい て、寄港地から外したこと で、経費の削減に努めたこと は評価できる。 今後、地元住民等関係者 の意向を十分踏まえながら、 自社の他航路も含めた寄港 地の集約やデマンド運航な ど効率的な輸送に繋がる航 路の再編の検討を期待した い。
岡山県離島航路確保維持協議会	三洋汽船(株)	笠岡～佐柳本浦航 路 (離島航路構造改 革補助金含む)	運航経費の削減に努め、安定 的な航路の維持を図った。 また、航路改善計画の策定 のため、新造船建造について、 議論を進めた。	A	B	島しょ部住民の高齢化や人口 減少が進む中、日本遺産認定 を起爆剤として、今後も引き続 き、運航事業者と行政が連携を 図りつつ、島しょ部のイベント等 の活用や情報発信を行い、島 外利用者の誘致によって、航 路維持を図る。また、離島航路 改善計画に基づき、航路の再 編を行い、航路の効率化を図 る。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定してい る運航回数を達成しており、 事業は適切に実施されてい ると評価できる。今期は大き な期間故障があり運航の継 続が危ぶまれた時期もあつ たが無事計画どおり運航を 継続することができた。 自社の六島航路でも寄港し ていた2つの港について、本 航路に集約し、効率的な運 航に寄与したことは評価でき る。 今後、地元住民等関係者 の意向を十分踏まえながら、 自社の他航路も含めた寄港 地の集約やデマンド運航な ど効率的な輸送に繋がる航 路の再編の検討を期待した い。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	
岡山県離島航路確保維持協議会	大生汽船(株)	大多府～日生航路	運航経費の削減に努め、安定的な航路の維持を図った。	A	B	<p>島しょ部住民の高齢化や人口減少が進む中、今後も引き続き、運航事業者と行政が連携を図り、島しょ部の観光資源の活用や情報発信を行い、島外利用者の誘致及び離島住民の生活を支える交通手段として航路維持を図る。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・寄港する島が別荘地として注目されており、コロナ禍にあっても一定の需要が継続的にあったことから、引き続きこれら観光資源の活用等、地域と一体となった利用促進及び情報発信に取り組んでいただきたい。</p> <p>・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の確保・維持が図られることを期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	
山口県生活交通確保維持改善協議会	萩海運(有)	見島～萩航路 (離島航路構造改 革補助金含む)	<p>日々の点検の実施による修繕費の抑制や運航時のエンジン出力を抑えることで燃料費の削減に努めたが、令和元年4月に就航した見島航路新船「ゆりや」の維持負担費用が通年ベースに戻ったことや燃料単価の高騰による燃料費の増加等により、運営費用は昨年度に比較し、増加となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による渡航自粛等で旅客数への影響はあったものの、大島での公共工事により、旅客数全体は、対前年度比101%増、貨物輸送は、対前年度比106%増となった。</p> <p>各島ともに感染防止対策として、イベントは開催されず、航路利用の利用促進としても慎重な対応が必要であった。</p> <p>日常的に利用される航路利用者が安心して利用できるよう、運航状況の情報発信を行うとともに、感染拡大防止対策を実施し、運航の維持に努めた。</p> <p>相島航路を運航する船舶の老朽化に伴い、代替船を令和3年6月に就航する予定で新船建造計画を進めていたが、就航目前で船体重量の超過が判明し、予定どおりの新船就航が不可能となった。</p> <p>このため、新たな新船建造計画に早期に取り掛かり、安全で安心な新船が一日も早く就航できるよう新船建造に取り組んでいる。</p>	A	A	<p>日々の点検を積極的に実施し、運航時のエンジン出力を抑制するとともに、燃料については最低価格業者からの仕入れを行う等により、燃料費や修繕費の経費節減に努める。</p> <p>本市における離島航路は、離島住民にとって、本土へ繋ぐ、唯一の公共交通であることから、日々の運航を維持するため、新型コロナウイルスと共存する航路運営が必要である。</p> <p>このため、感染防止対策を引き続き実施するとともに、市をはじめ関係機関、団体との情報連携等により、安心して利用できる離島航路を運営する。</p> <p>また、県のFacebookをはじめとするSNSを活用し、離島航路の情報発信に努めるとともに、今後、離島振興に資する取り組みが再開される場合、イベント等の実施団体と感染防止対策に向けた連携を図り、交流人口の回復・航路利用者の回復に向けて取り組んでいく。</p> <p>相島航路の新船建造計画を進め、安全で安心な新船が一日も早く就航できるよう取り組んでいく。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・相島航路において、船舶の老朽化により代替建造を進めていたが、造船所側のミスにより就航直前で契約解除となり、新船の就航は約2年遅れの見込みとなっている。老朽化している船舶をもう2年継続して運航することとなるため、船舶の整備点検を適切に行い安全運航に努めていきたい。</p> <p>・島民にとっては、バリアフリー対応やフェリー化を待ち望んでいたことから、再度の新船建造計画については、一日でも早く就航できるよう関係者一丸となって取り組んでいきたい。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	
山口県生活交通確保維持改善協議会	大津島巡航(株)	大津島～徳山航路	<p>新型コロナウイルス感染症対策を行いながら運航を実施した。</p> <p>経費削減に努めたものの、定期検査を実施するなど船舶修繕費等の影響により運航費用が増加した。</p> <p>ホームページのリニューアルやTwitterアカウントの運用開始など情報発信に努めた。</p>	A	A	<p>島民の減少等により、旅客運送は今後も減少傾向が見込まれ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響についても将来が見通せない状況であるが、航路の維持に向け、徹底した感染症対策を行うとともに、引き続き船費等の経費削減に努め、経営改善に取り組む。</p> <p>また、引き続き関係機関と連携し、効率的な運航体制の構築に向けた検討を行う。</p> <p>併せてホームページやTwitter等により積極的な情報発信に努める。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・ホームページやTwitterなどデジタル化にも対応し、運航情報をはじめ航路の情報発信に努めたことは評価できる。</p> <p>・島内には観光施設もあり、他の航路と比べ観光利用も多いことから、コロナ収束後を見据えた取り組みに期待したい。</p>
山口県生活交通確保維持改善協議会	牛島海運(株)	牛島～室積航路	<p>島の過疎・高齢化に伴い利用者が減少する中で、航路を維持するために、コミュニティセンターや光市地域公共交通協議会等との連携による不定期航路事業への取り組みやFacebook等を活用した情報発信等により利用促進を図る。</p> <p>また、経営健全化の観点から運賃改定に向けた検討を進めるとともに、引き続き船舶修繕費等の経費削減に努める。</p>	A	A	<p>島の過疎・高齢化に伴い利用者が減少する中で、航路を維持するために、コミュニティセンターや光市地域公共交通協議会等との連携による不定期航路事業への取り組みやFacebook等を活用した情報発信等により利用促進を図る。</p> <p>また、経営健全化の観点から運賃改定に向けた検討を進めるとともに、引き続き船舶修繕費等の経費削減に努める。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・島民の減少と高齢化に伴う利用ニーズの変化や、船員確保が困難な現状を踏まえ、ダイヤの見直しや母港の変更について、航路の利便性の向上と持続可能性を担保するために検討していることについて評価できる。</p> <p>・近い将来、新船導入を予定しており、それに合わせた運賃改定も実施する方向となっているため、計画的に準備を進めていくことを期待したい。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状 況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通確保維持改善協議会	上関町	八島～上関航路	島民や関係機関とが協力して、島の気候を生かした農産物の育成や海産物などの特産品開発に取り組むと同時に、様々な島の魅力を伝えるため情報発信を行い航路利用者の増加を図る取組みを行った。	A	A	室津港待合所の完成により、乗客の安全性や利便性が向上することで、利用者数の増加の取組みを行っていく。 また、引き続き、日常点検を積極的に実施するとともに、修繕費や燃料費の経費削減に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 道の駅に合わせる形で室津港待合所を新設したことで乗客の安全性や利便性が格段に向上したことは評価できる。 今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の確保・維持が図られることを期待する。 	
山口県生活交通確保維持改善協議会	上関航運(有)	祝島～柳井航路	祝島自治会より、帰省客、観光客、釣り客等の来島自粛要請が継続されており集客の為のアピールは行わなかったが、Facebookでの「いわい」の情報発信は行った。 燃油使用量は微減したものの軽油の高騰により燃料潤滑油費は増加した。	A	A	Facebookでの「いわい」の情報発信は行い、コロナ終息後は島民や行政、地元関係者と協力引き続き島のアピールをしていき帰省客、釣り客、観光客の集客に取り組む。 また、経費削減に努め、航路運営の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 来島自粛要請が継続して行われていたことから、集客のためのアピールはできていないが、室津港の一体的な整備も実施され観光客の受入体制は充実したことから、コロナ収束後にいち早く観光客を取り込めるよう、計画や準備を進めることを期待したい。 	